

中国（上海）ビジネスサポート

Monthly China News

*毎月1回、定期的に中国より配信致します。

中国各地で 40℃超えの猛暑となった 8 月も過ぎ、過ごし易い季節と なってきました。中秋節もお天気に恵まれ、夜には満月が見ることが できましたが、今年は少し風景も違いました。では、今月のレポート をお届けいたします。

*黄浦区順昌路；90 日以上も封鎖が続いた重度感染エリア。コロナウイルス蔓延対策と新都市計画 で、下町の古くからの住民は全て郊外へ転居してしまった。



【政治・経済】

- ・習近平・総書記による「重要講話」；2021 年の中国共産党第 19 期中央委員会第 5 回全体会議（第 19 期 5 中全会）の第 2 次全体会議で習近平・総書記 により行われた。「新たな発展段階に新たな発展 理念を貫徹するには必然的に新たな発展の枠組の構築が要求される」との重要講話を党機関紙に発表 し、①内需システムの育成・整備の加速、②科学技術の自立自強の 加速、③産業チェーン・サプライ チェーンの最適化・高度化の促進、④農業・農村の現代化推進、⑤人民の生活の質の向上、⑥安全な 発展という最低ラインを守るという 6 つの重点を指摘した。（9/1 人民日報）
- ・8 月の物価統計；8 月の CPI（消費者物価指数）は前年同月比 2.5%上昇、上昇幅は前月より 0.2 ポイント縮小。8 月の PPI（工業生産者物価指数）は前年同月比 2.3%上昇、上昇幅は前月より 1.9 ポイント縮小した。（9/9 国家統計局）
- ・10 年間の中国 GDP 平均成長率 6.6%；国家統計局はこのほど、中国共産党第 18 回全国代表大会以降の 経済・社会発展成果報告書を発表。2013 年から 2021 年までの間に、中国の国内総生産（GDP）年平均 成長率は 6.6%となり、同期間の世界平均の 2.6%や発展途上平均の 3.7%を上回った。中国の世界経 済成長への寄与度は平均で 30%を超えた。（9/19 新華網）
- ・「BRICS 新産業革命パートナーシップフォーラム」アモイで開催；在中国大使館や国際機関、著名企業、 業界団体の代表 300 人余りが出席し、産業のデジタルトランスフォーメーション、産業チェーン・サ プライチェーン協力、工業の持続可能な発展などについて討論。2020年12月、アモイにて政策連携、 人材育成、プロジェクト開発の 3 大重点分野での協力を現実的に推進するものとして「BRICS 新産業 革命パートナーシップイノベーション基地」建設が正式に始動した。（9/8 中国新聞網）
- ・2022 年中国民間企業上位 500 社を発表；京東集団、アリババ、恒力集团有限公司が上位 3 位。上 位 5 位までにランクインした民営企業の営業収入はいずれも 6,000 億元を上回った。昨年首位の華為 （HUAWEI）投資ホールディングスは 5 位。上位の業種はインターネット関連、石油・石炭加工、非鉄 金属、IT、不動産等。（9/7 中国工商業联合会、新華社）

【製造業関連・関連の政策等】

- ・8 月の購買担当者指数(PMI)；製造業 PMI は 7 月より 0.9 ポイント低下の 49.5。3 ヶ月ぶりに再び 50 を下回った。（9/1 財新）
- ・全国政治協商経済委員会副主任・工業情報化部苗圩元部長は、第 4 回世界新エネ・スマート車サプラ イチェーンイノベーション大会にて、「新エネ車の普及率 25%の目標は、3 年前倒しで今年 2022 年 に達成できる」と表明。「新エネルギー車産業発展計画（2021-2035 年）」では、2025 年に目標を達成

すると掲げている。(9/6 澎湃新聞)

- 国内の石油製品価格を引き上げ；国家發展改革委員会は、石油の国際市場価格の急激な高騰の影響により、国内の石油製品価格を6日24時から引き上げると発表。1トン当たりの上げ幅はガソリンが190元、軽油が185元。6月28日以降5回連続で引き下げられていたが、下半期になって初の値上げとなった。(9/7 中国経済網)
- 雲南省の降水量減少；今年7月～8月にかけての降水量が前年比25%～36%減少。第4四半期の降水量は通常第1～3四半期のわずか12%～23%で、電力供給が逼迫。この影響で電解アルミニウム産業が再び生産限界に直面する可能性があるとして、政府電力供給部門より各企業に対し9月14日より10%生産制限の通達が出されている。(9/14 金融界)

【中国・スマート農業】

中国での農業環境については、大陸での気温差、天災、地域格差からくる技術や品質管理の差等、課題は多い。例えば主食である「米」を例に見ても、一般米から有機米まで、管理や製法は異なってくる。

◆中国農業の現状

中国農業は、人力と畜力を中心とする伝統農業(農業 1.0)、バイオ化学農業(農業 2.0)、機械化農業(農業 3.0)を経て、スマート農業(農業 4.0)の新時代に突入したと言われている。

伝統的農業生産方式からの転換、土地や水資源等、農業資源の有効活用と、生産効率の大幅向上、品質向上と安定に着実に向かっている。2035年にはスマート農業の全面展開を目指し、2025年迄をスマート農業への発展段階と位置付けている。農業生産のデジタル化を現在の20%から40%に引き上げるほか、農業GDPに占めるデジタル化比率を現在の8%から15%に引き上げ、農村振興に落とし込む。(*出典:

中国情報通信研究院と中国人民大学『中国スマート農業発展研究報告』)

◆スマート農業(農業IoT)

農業IoTとは、センサーで作物の生育データや土壌データなどを収集、クラウドに送信し、最終的にビッグデータや人工知能等の技術を用いて作物の生育状況、肥料調整等の農業のデジタルモデルを構築することを指す。また、水肥一体化制御により、各設備の稼働状態を監視、モバイルアプリやPC等のミニプログラムなどを通じてリアルタイムで作物の生育状況を確認できる等、最終的に現実世界とデジタルが融合した農業のデジタル化を実現する。ハウス栽培、畑作、果樹園、養殖管理などで現在少しずつ実用化が進んでいる。

■2017-2022年;中国スマート農業関連企業登録推移



*資料出所:CNNIC「2022年第49回中国インターネット発展状況統計報」

◆スマート農業産業

中国のスマート農業は一定の進展を見せているが、基礎研究や技術の蓄積が不足しており、全体的な技術水準は先進国と10年以上の差がある。また、スマート農業の実現には農機装備が欠かせない。中国は全行程での機械化支援と普及に力を入れて



おり、2020年には全国の農作物の耕作、栽培、収穫の総合機械化率は71.25%。関連分野の機械化率も増加し、機械栽培率85.49%、機械種植は58.98%、機械収穫は64.56%に達した。畜産も35.79%、水産養殖31.66%、農産物の初期加工についても39.19%にまでIT化が進んできている。

それでも、中国の現在の農機化と農機装備のレベルは先進国と比較してまだ 10～20%の差があると言われている。地域振興とも密接な関連がある農業では、農業に携わる農家の教育レベルも課題で、機械化自動化、IoT 導入の前に、概念の教育や機械の指導等、インフラ整備も必要になってくる。日系企業との協業余地は非常に広く、実際上海近郊の崇明区では、日本の技術を導入したスマート稲作が試行されている。



*資料出所:農業機械化管理司「2020 年全国農業機械化発展統計公報」

【トピックス】

1：中国共産党第二十回全国代表大会 10 月 16 日より北京で開幕

次の 100 年の方針を決めると言われている、注目の党大会がいよいよ 10 月 16 日から開催となる。なかなか日程が決まらず、その会期がいつなのかが注目されていたが 8 月末にようやく決定。今後の方針も含め、ゼロコロナ規制がどこまで緩和されるか、期待されている。

2：第 5 回輸入博の出展品第一弾が中国へ 過去最高の総額 114 億円

第 5 回中国国際輸入博覧会の海外からの出展品第一弾が、9/20 上海市に到着。通関手続きを済ませた。宝石をあしらった芸術品 25 点で、香港特別行政区から航空機で上海浦東国際空港に輸送され、上海税関の検査に合格、スムーズに通関された。申告価格は 5 億 6 千萬元（約 114 億 2635 万円）に上り、輸入博の出展品のうち 1 回の通関で申告された価格としては過去最高。（9/21 人民網）

3：全国でゼロコロナ対策継続中・上海は 10 月も無料 PCR 継続を決定

9 月から 10 月は中国でも祝日が多い時期であり、9 月 10～12 日の中秋節、そして 10 月 1 日からの大型 7 連休がある。10 月の党大会を目前に、ゼロコロナを継続している中国では依然として一人であっても陽性者が出ることは許されない状況となっており、上海は 10 月下旬まで PCR は無料とし、3 日に 1 回の PCR を義務付ける。他、各地でもその地域からの出入の際には、PCR 検査を義務付け、陽性者そして密接者は封鎖管理、他は正常な社会活動を継続という感染対策が常態化してきている。

4：上海大型隔離施設が撤去。本格的に産業博覧会開催に向けて稼働

長い封鎖による打撃の大きかった上海の大型展示場やコンベンションセンターが、徐々に回復してきている。3 月頃から、上海全域で広がるコロナ感染者に対し、病院ではなく一括集中で治療を行う「方船」という隔離集中治療施設の設置が相次ぎ、大型展示場もこの治療施設として改造され使用されてきていた。輸入博の会場として知られる最も大きな「上海国家会展中心」は既に 7 月から稼働、上海の展示場としては老舗の「上海新国際博覧中心」もいよいよ 9 月 13 日から展示会等の運営を開始する。大型展示場の完全復旧には、撤去・消毒・安全に係わる批准も含め、約 2 か月を要した。長い封鎖で展示会等が一切行われていなかったが、今後の人が集まる機会に期待が高まる。

5：中国の 60 歳以上人口が 2035 年頃に 4 億人超

2021 年末の時点で、中国全土の 60 歳以上の高齢者数は 2 億 6700 万人で、総人口の 18.9%を占めていた。65 歳以上の高齢者数は 2 億人以上で、総人口の 14.2%を占めた。第 14 次五カ年計画（2021 - 25 年）期間中、60 歳以上の高齢者数は 3 億人を超え、総人口に占める割合が 20%を超えて「中度の高齢化」の段階に突入すると予測されている。また、2035 年頃に、60 歳以上の高齢者数が 4 億人を超え、総人口に占める割合が 30%を超え「重度の高齢化」の段階に突入すると予測されている（9/21 中国国家衛生健康委員会）

【注目エリア・常州天寧開発区】

常州は上海より高速鉄道でやや北へ約 1 時間。中国現代文学作家・瞿秋白の故郷、そして恐竜の遺跡が発掘された地としても知られる。江蘇では製造業集積地としては蘇州を思い起こす人も多いが、実は常州も見逃せない。幾つかある園区の中で、日系では小松製作所、大和ハウス等が進出済みであり、常州駅降りてすぐの旧市街に広がる「天寧高新開発園区」をご紹介します。

◆常州天寧高新区

天寧高新区は天寧区市外からやや北東部に位置する。10 平方キロのコンパクトな園区にはハイエンド装備製造、先進材料、次世代情報技術と生命健康・医薬が集積。園区内の企業集積密度が高く、情報交換や技術協力も盛んでイノベーションが起きやすい。

◆天寧自動車知能部品産業園

自動車産業は天寧区の柱。新エネルギー自動車向けのサプライヤーチェーンが構築されている。他にも無錫や蘇州の大学とも連携した産学連携にも積極的で、技術開発センターを構える企業も多い。総建築面積は 48.5 万平方メートルの中に、工業工場 3 棟、生産研究開発棟 13 棟は既に建設済み、稼働を開始。他にも社員用マンションやサービス棟も園内にあり、生活や工場稼働の問題相談から解決まで、世界各国語に対応できる園区内専任スタッフが、ワンストップサービスを提供している。

◆中欧（常州）検査検査認証国際協力産業園：

長江デルタ地域でも珍しい、検査・測定・認証サービス業が集まっているのも特徴的。SGS、天祥、ライン、倍科、ヨーロッパ工業品センター、壇墨品質検査等、約 140 の専門企業が天寧に集中。江蘇一帯でも検査・認証・検証専門エリアとしても認知が高く、華東エリアでの技術集積の一役を担っている。



【イベントセミナー】

1：PTC 上海 11 月 25 日～28 日：上海新国際博覧中心（※1）

2：FBC 上海 12 月 15 日：上海国際貿易中心（参加費無料）

*（公財）大阪産業局上海代表処は FBC ものづくり商談会の共催団体になっています。関西広域連合域内の企業は大阪産業局上海代表処を通じて申込みいただくと、（※1）は特別共催価格が適用されます。

~~~~~  
10 月 1 日～7 日は国慶節。コロナ規制の中で移動も難しいので、地元で楽しむ人が多いでしょう。散歩しながら、少し美味しいものを。そんな簡単な連休もいいかもしれません。また次号でそんな様子もお届けいたします。

大阪産業局上海代表処 中国（上海）ビジネスサポート  
ファクトリーネットワークチャイナ（工場網信息科技（上海）有限公司）  
上海市長寧区延安西路 2201 号 上海国際貿易中心 2 階 268 室